

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	19	学校名	揖斐高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携・協働した学びを推進する連携型中高一貫教育を行う高校として 地域資源を活用した探究的な学び、視野を広げ自己有用感を高める教育活動を通して持続可能な活力ある地域社会を形成する創り手や担い手の育成を目指す学校			
学校教育目標 (教育方針)	1 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する 2 知・徳・体の調和のとれた人格を養う 3 地域社会に貢献できる人間を育てる			
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G.P】	基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 多様な価値観を尊重し、仲間に對して心配りをしながら協働できる生徒 目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒		
	生徒をどう育てるか 【C.P】	学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養		
	どんな生徒を待っているか 【A.P】	将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 仲間に思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒		
学校の抱える課題	①生徒数の減少を見据えた対応 ②学校環境の整備 ③基礎学力の向上 ④人間関係形成能力の向上 ⑤持続可能な教育活動の展開			
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標		
	学校経営	1. 魅力ある学校づくりの推進 2. 学習環境の整備 3. 勤務環境の改善		
	学習指導	1. 確かな学力の育成 2. 授業改善の推進		
	生徒指導	1. 心の教育の充実 2. 豊かな人間性の育成		
	進路指導	1. 地域社会の担い手の育成 2. キャリア教育の推進		
年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等
学校経営	1. 本校の特性を発信するための中学校への啓発活動の見直し 【例】『学校案内』の作成及び配布方法の検討	20	施策IV-20	志願者数の推移
	2. 生徒の体調面での健康と安全を確保するための空調設備の整備 【例】生活デザイン科の使用する専門教室のエアコン設置	20	施策IV-20	エアコン設置の状況
	3. 教職員の誰もが働きがいを実感できる多忙化解消やハラスメント対策の取組の推進	27	施策IV-27	時間外勤務の検証 「エントリーシート」の分析
学習指導	1. 中学校段階までにおける基礎・基本に係る学び直しの保障 【例】『揖斐Basic』の活用	8	施策II-8	「揖斐Basic」の検証
	2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現につながるICTの適切な利活用	9	施策II-9	「授業アンケート」の検証
生徒指導	1. コミュニケーション能力や自己表現力を育成する取組 【例】「演劇ワークショップ」の開催	1	施策I-1	「演劇ワークショップ」の検証
	2. ルールやマナー、モラルを遵守する意識の向上を図る取組 【例】「情報モラル教室」、「交通安全教室」の開催	19	施策III-19	各種アンケートの分析
進路指導	1. 学びと地域貢献とをつなぐ学校外での実習や体験の充実 【例】「デュアル実習」の実施、「地域医療講座」への参加	13	施策II-13	就職状況の検証
	2. 生徒一人ひとりのニーズ等に基づいた進学・就職支援の推進 【例】「進路ガイダンス」の充実	13	施策II-13	各種取組の分析
来年度に向けての改善方策等				実施日：令和8年1月9日
学校経営 *生徒の学習環境及び教職員の職場環境の整備、中学校への啓発活動等を推進するため、予算確保のための協議を進めつつ迅速に着手していく。 学習指導 *1年生は「揖斐Basic」による学び直しを継続して取り組み、高校での学びを深めるための基礎学力を身に付けさせる。 *教科を越えた授業研究会の実施など、工夫ある校内研修を通して、全職員が一丸となって授業改善を推進していく。 生徒指導 *他者のとの関わりの中で、人の役に立った、人から認められた、人から感謝されたという『自己有用感』を高められるような指導をしていく。 進路指導 *デュアル実習やボランティア活動などにおいて、地域との連携・交流を深めるとともに、総合的な探究の時間の内容を充実させ、自分自身を見つめながら進路について考えさせていく。				実施日：令和8年1月16日
学校関係者評価 *揖斐Basicの学び直しは有難い。子供たちが中学校の時はわからなかったが、高校に入ってわかるようになったと言っている。 *現在はAIが発達など便利な世の中になっているので、問題を発見する能力が低下するとともに、学力も低下してきてる。様々な活動の中に問題発見の機会を作っていくといい。 *地域医療講座は10種ぐらいの職種が体験できる。1年生のうちから体験することが目的である。今後も継続していって欲しい。 *授業や生活面について生徒にアンケートを取って改善・対応しているのはいい。今後も継続を。 *貴重品管理や自転車の盗難など加害者を出さないような仕組みづくりも検討していくほしい。				